

雜 錄 Miscellaneous

滿蒙ノまたたび (其五)

高 橋 基 生

M. TAKAHASHI: Stories and gossips in my journey
through Manchoukuo (V)

承德ノ喇嘛寺ハ皆ガ皆、狐狸ノ棲家ト荒レ果テ、キルト思ヘバ、サウトモ限ラナイ。現ニ渡船場ノ少シ上手ニ當ル、小高い丘ニハ眞新シイ白壁ノ一寸「スマート」ナ小院ガ扉ヲ開イテキル。コノ暑サニ彼處マデ登ル迄モナイトハ思フモノ、何トハナシノ好奇心ト心残りガ悔シクテナラナイ。出盡ル足ヲ勵マスコトハ雜作モナイガ、出過ギル汗ヲ抑ヘル術ハサラサラナイ。漸クニシテ辿リ着クト、コノ寺バカリハ一寸勝手ガ違フ。五百羅漢ト思ツタ奴ハ皆息ガ通ツテキル。車坐ニ構ヘタトコロ、只ゴトデハナイラシイ。口々ニ喚ク中ヲ一人ノ喇嘛僧ガ異様な器ヲ持ち廻ツテキル。ヤガテ件ノ器ガ祭壇ニ上ルト、「ガン、ゴン、ジャン」イトモ奇妙ナ樂ノ音ト共ニ讀經ガ始マル。一方件ノ車坐ハソソナコトニハ凡ソ縁モユカリモ無イ存

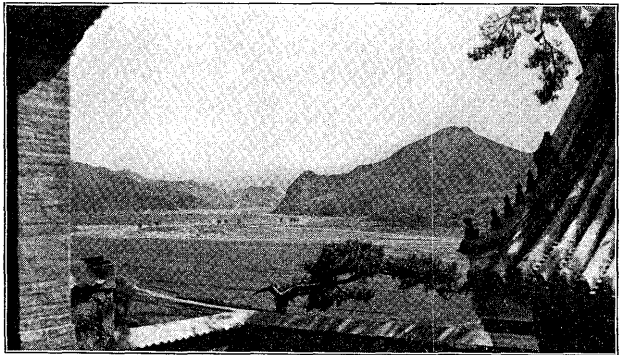


Fig. 1. 賭博寺カラ瀾河ヲ瀾江スル白帆ヲ望ム (著者撮影)

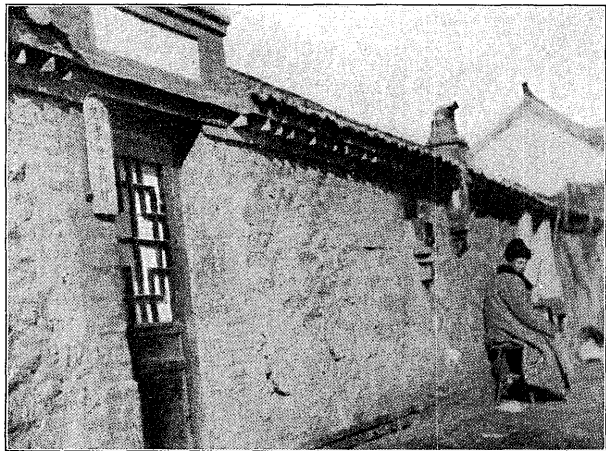


Fig. 2. 阿片吸飲ノ魔窟「禁煙藥館」入口

所ト喚キヲ續ケテキル。丁半ノザワメキト祭樂ノ交響樂ハ蓋シ珍無類デアラウ。考ヘテ見ルト、博ハ賭寺デアルノガ本筋カモ知レナイ。ソレデ「テラ錢」ノ語源ガ讀メタ譯カ。

今日ハ一日休息日、自由ニ足ヲ延バシテ寢ヨウトイフ心掛ノ良イ人モアラウガ、筆者ハ歩ク方ガ勝手デアル。ソレデ懸案ノ市中探索ヘト足ヲ延バスコトニシタ。目指ス先ハ他處デモナイ。禁煙藥館トアルノガ何ノ譯ヤラ、如何ニモ讀ンデ字ノ如クデハ無イラシイ。「子供ガ始メテ卵ヲ割ル時ノ喜ビト不安」ドウヤラカウ言ツタ氣持ニ驅ラレテ、障子戸ヲ排シテ見ルト、中ハ薄闇イ。旅順仕込ミノ一誦ニ、佐藤氏直傳ノ聲色ガ板ニ附イテ響イタカ、否カ。「カン、カン、ハオ」(見テモ良イカ)ト云フ譯デ、今度ハ向フカラ流暢ナ滿洲語ノ説明一クサリ。マ、ヨトバカリ鼻ヲ摘ンデ聞キ入ル振リヲスルコトニシタ。何ノ事ハナイ時々ハ肯イテ「ミンバイ」、「ミンバイ」(判ツタ、判ツタ)ト言ツテヤレバ良イノデアル。關西ノ俚諺ニ「女ハ愛嬌、男ハ度胸、坊サンハオ經デ、松屋町ハ菓子屋」トイフノガアルガ。カウナルト糞度胸モ少々度ヲ越シテキル。〇〇ニナレバ、盲判ヲ捺シ、滿洲ヘ行ケバ、糞度胸デ押シ廻ラナクテハ一日モ務マラヌサウデアルガ、成程ト首肯ケル。

「マドロス、パイプ」ノ柄ノ長イヤウナモノヲ「アルコールランプ」ノ灯先デ暖メ乍ラ、「パラビン」紙包ニナツタ黒イ粗製ノ阿片ヲ練リニ練ツテ摺リ着ケ、フツト火ヲ點ジテ、薄紫ニ上ル煙ヲ腹一杯ニ吸ヒ込ムノデアル。然モコレヲ片肘立テ、ノ寢業デヤツテノケルノデアルカラ、仲々修業モノデアル。カウマデモシテ武陵桃源ニ憧レタイモノカシラ。

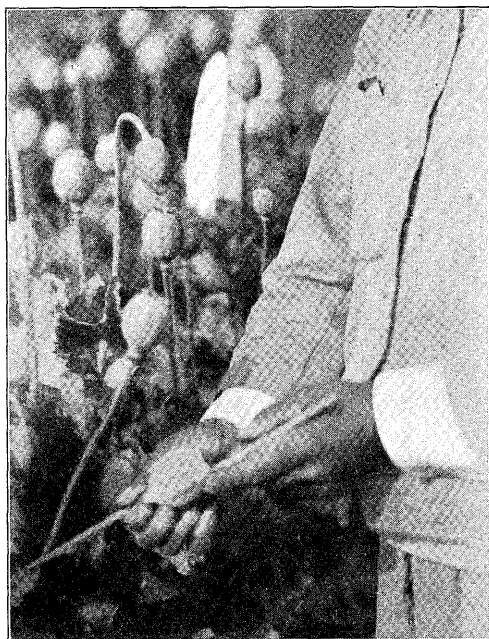


Fig. 3. 罂粟坊主ニ條ヲ入レル有様……日本式 (著書撮影)

熱河省ニ於ケル罂粟栽培ハ其ノ源ヲ質セバ今ヨリ十數年前姜桂題ガ熱河都督ニ任ゼラレタ際軍費ニ窮シテ大々的ニ其ノ栽培ヲ獎勵シテ以來、急ニ產額ガ増大シタモノデ、ソノ後増殖ノ一路ヲ辿ツテ停止スルコロヲ知ラヌノデアル。勿論國民政府トシテハ民國 18 年 3 月以來、禁煙令ヲ名目上ハ實施シテキル筈デハアルガ、熱河政府ハ却ツテ罂粟ヲ栽培ヲ獎勵スル始末デアル。併シ乍ラコノ珍現象ヲ單ニ國民政府當局ノ無力暴露ダト嘲笑フ者ガアルトスレバ、現地ノ實情ニハ空疎イト非難サレテモ致シ方ガナイ。何トナレバ一畝アタリノ農家ノ收入ヲ比較シテ見ルナラバ、成程ト首肯サレル。即チ穀類ヲ栽培スル時ニハ約 6,7 元ノ收入ガ漸クデアルノニ反シテ、罂粟ノ場合ニ

ハ優ニ 20 元ノ收益ヲ擧ゲ得ルノデアツテ、利ニ敏イ、惡ク言ヘバ命ヨリ金ノ大事ナ漢人ガ其ノ栽培ヲ斷念スル筈ハナイノデアル。又滿洲國成立以前ニハ同地ノ軍閥ハ採レタ阿片ヲ奉天ニ搬出シ、其ノ間ノ移出税ニ依ツテ巨利ヲ博シテキタノデアルカラ、コレ又私腹ヲ肥ヤスニ汲々タル軍閥トシテハ止メラレヌノガ當然ト言ハネバナラナイ。ソレ故ニ其ノ栽培ハ省内各地ニ傳波滿延シ、中デモ平泉縣ハ最モ盛ンデアツテ、圍場縣コレニ次ギ、赤峰縣、凌源縣ハ言フニ及バズ、更ニ北部各地ヨリ、山間僻村ニ迄波及スルニ到ツタノデアル。然ルニ滿洲國成立ト共ニ事態ハ一變シテ、阿片吸引ハ人類ニ害毒ヲ流スモノトシテ極端ニコレヲ制限乃至ハ禁止シタタメ、コニ熱河省産阿片ノ賣買ガ白日下デハ行ヒ難イ事トナツタ譯デアル。然ルニ同地ノ農民トシテハコノ栽培ヲ思ヒ止ル事ガ出来ナイトスレバ、其ノ間ノ捌口ニ贈收賄トカイフ大小無數ノ怪魚ガ泳ギ廻ルコトハ何ノ不思議モナイ。ソコデ今後コノ問題ヲ滿洲國當局ガ如何ニ處理スルカハ興味アル問題ト言ハネバナラナイ。試ミニ筆者ヲシテ言ハシムレバ、徒ニ人道上云々ナル聲ヲ大キクスルコトハ暫ク止メテ、現地ノ實情ニ即シタ辦法ヲ講ズルコトガ必要デハナイデアラウカ、「角ヲ矯メテ牛ヲ殺ス」愚ヲ敢テスルコトナキヲ切ニ望ミタイノデアル。古人ノ言フ「淀川ノ抱キ鯉」トカイフ例ハ獨リ日本内地ニミ流通性ヲ有スルモノデモアルマイガ、阿片ノ話ガ出タツイデニ、モウツ申シ上ゲタイコトガアル。ソレハ他デモナイ、阿片ハ御承知ノ如ク所謂罂粟坊主ニ双物デ搔條ヲ入レ、ソコカラ分泌スル乳液ヨリ製造スルノデアルガ、コノ搔條ノ入レ方ガ日本内地ト熱河デハ相異ツテキルノデアル。コノコトハ多クノ旅行者デモ氣付イタ人ハ恐ラクアルマイト筆者ハ愚カナ自負ヲ許シテキル。即チ日本式トイフノハ、罂粟坊主ノ稜線ニ沿ツテ縱ニ條ヲ入レルノデアルガ、熱河式ハコレニ反シテ横ニ線ヲ入レルノデアル。然カモ各線ハ平角ニ近イ鈍角デ相交錯スルヤウニシテキル。コノ兩者ノ利害得失ハ確カトハ知ラマガ、内務省衛生試験所附屬藥草園ノ某氏ヲ捕ヘテ尋ネタトコロデハ日本式ノ條ノ入レ方ノ方ガヨリ効果的デアルサウナ。街ニ阿片窟ノ多イ無智ナ市民ノ中ニモ、平和ナ春ガ訪レサヘスレバ、向學ノ木ノ芽ハ矢張り萌エ出ルモノデアラシイ。吾々調査團本部ニ當テラレタ舊承德縣立師範學校ノ校舍ノ一部ニ手ヲ入レテ開講シタ日語學校ノ繁昌振リハ、コノ間ノ事情ヲ如實ニ物語ツテキル。駐屯軍ノ通譯ヲ講師トシテ老若混淆ノ生徒ノモノスル「バス」ト「アルト」ノ「アイウエオ」ヤ「私ハ貴方ヲ愛シマス」等ト、何シロ朗カナ情景デアル。一方團ノ護衛兵ノ間デモ、中デノ先輩株ヲ聘シテ「イー、

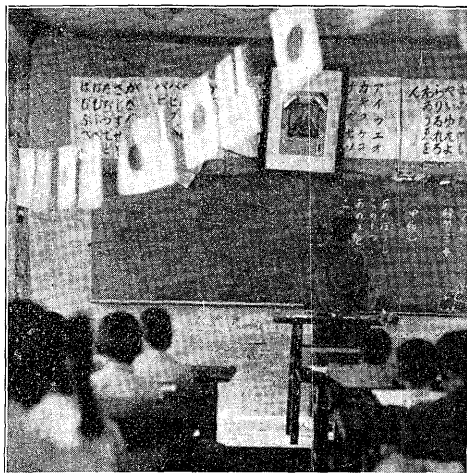


Fig. 4. 日語學校ノ教授振り (著者撮影)

アル、サン、スー、ウー、
リユー、チー、バー」ヤ
「オーアイニー」ト滿
洲語熱ノシツペイ返シ
デアル。偕テ承德ハ如
何ニモ面白イ處デア
ル。ホノ暗イ朝マダキ
カラ鶯ノ谷渡リナラ
ヌ、一輪車ノ溝渡リノ
聲ガ絶エナイ。智恩院
ノ廊下モ名僧智識トヤ
ラガ踏メバ鶯張リノ音



Fig. 5. 承德ノ一輪車屋根ニハえだうちれんげガ密生シテキル
(著者影撮)

ヲ發シテ三十六峯ノ藪鶯ヲ戸迷ヒサセルトイヘバ、コノ愛ス可キ一輪車ニモ鳩車位ノ愛稱ヲ
奉テモ街ノ夜鷹ガ襲ヒ掛ル心配ハ先ヅナイ事ト思フガ、實際一雨降レバ鱗掬ヒカ、田植エデ
モ始リサウナ道ヲ縫ヒ乍ラ通ズルニハ、コレデナクテハ適ハヌコトデアル。

「必要ハ發明ノ母」トイヘバ、何モ物數寄デ槌ヘタ譯デモアルマイ。

今シガター一輪車デ運ビ込マレタ大豆ノ大袋ハ苦力ノ背ヘト肩換ヘラレテ糧棧ノ門内ニ消エ
ル。フト屋根ヲ見上ゲルト、(正直ニ白情スレバ、モツト前カラ氣付カヌ筈ハナイガ)屋根
一面ニえだうちれんげガ密生シテキル。内地等デハ屋上ニ草ガ生エルト「ぺんぺん草ガ生エ
タ」等トヒドク氣ニ病ム向キモアルガ、うすばかげらうノ卵ヲうどんげノ花ト呼ンデ御幣ヲ
擔グ手合ニハ心行クマデ氣ヲ揉マセテオクコトデアル。併シ日本ニモ美シイ例外ノアルコ
トヲ筆者ハ知ツテキル。ソレハ小田原カラ箱根電鐵デ強羅ヘ向フ途中酒匂川ニ沿ツタ數軒

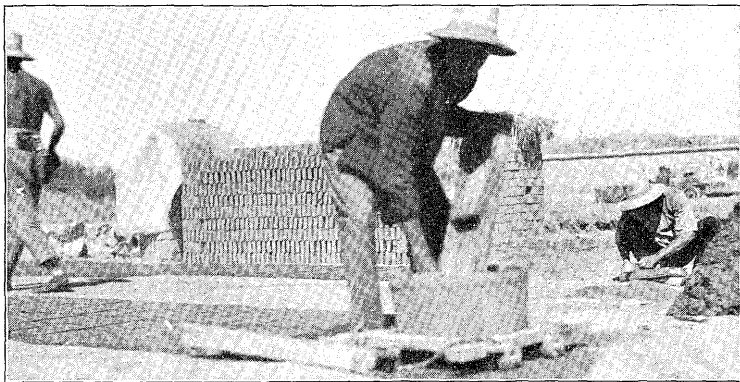


Fig. 6. 建築用ノ生煉瓦製造所 (著者撮影)

ノ農家ノ屋根ニ同ジぺんけいさう科ノつめれんげガ密生シテキルノヲ目撃シタガ、別ニ氣ニ
病ンデ取り棄テル氣配モナイ、否カウ生エ揃フト正ニ屋上花園デ美事千萬デアル。話シハ屋

根カラ箱根八里ヘトツイ外レタガ、實際モウ一月モシテ白ヤ薄桃色ノ花ガ咲キ亂レタラ承德ノ街ヲ見直サネバナナルマイ。但シ桃色ノ屋根ダカラトテ其ノ下ニ結ブ夢ヲ必ズシモ美化スルトハ限ツタコトデハナイ。現ニ入道大ノ蹶ニ追ヒ廻ハサレテ、馴レヌ携帯用寢臺カラ振り落サレタトイフ精進ノ良イ御仁モアル。兎ニ角、夢ハ何等カノ形式ニ於テ醒メルベキモノデアル。併シ滿洲デワザワザ夢ノカラ借りナクトモ現實白晝デサヘ一寸眉ニツバシタク思フ事ガマ、アル。コレカラ述ベル建築用ノ煉瓦？ガ其ノ一例ダト言ヘル。丁度日本家屋ニ用フル壁土ノ如クニ藁ヲ切ツテ練リ混ゼタ土ヲ内地ノ煉瓦大ノ型ニ入レテ形ヲ整ヘ、コレヲ天日ニ列ベテ干シ固メルノデアル。成程至極簡單デ、コレヲ積み上ゲテ家ヲ作ツテモ後顧ノ憂ガ残ラストスレバ眞ニ結構デアルガ、天然ハサウ甘ク見ラレタモノデナイ。ソレモ北方地方ノ如ク雨ノ少イトコロデハ或ハ十數年ハ保チ耐ヘルカモ知レナイガ、承德カラ南デハ夏ノ豪雨ニ耐ヘル可クモナイ、筆者ガ幼少ノ時ニ場所ハ確トハ覺エナイガ、オ菓子ノ國ガ水攻メニ遭ツタ活動寫眞ヲ見タコトガアルガ、マアサウ言ツタ工合ノ心細サヲ何トシタモノデアラウ。但シコレヲ性モ懲リモナイト言ツテハ或ハ可哀サウカモ知レナイ。焼イタ煉瓦ヲ用ヒタクトモ金ガ無イノカモ知レナイカル。兎ニ角雨ガ上レバ蟻ノ巢ノ如クニ家屋ノ修理ガ一仕事デアル。勿論内地ダトテ笑ツタ義理デナイ。金澤邊へ行ケバ長土堀町ナドト町名ニナツテキル位未ダ未ダ土堀ガ澤山残ツテキル。トコロガ熱河ノ奴ハ家屋ノ重ミヲコレニ架ケテキルトコロガ如何ニモ危ツカシイ。ソレデモ流石ハ熱河ノ首都デアル。承德市中デアレバ、所謂焼イタ煉瓦ノ家ヤ、焼イタノト生ノ奴トヲ、雨ノアタリ工合ニ從ツテ適當ニ鹽梅シタ家が大多數ヲ占メテキル。大分話シガ立チ到ツテ來タノデ鬱憤晴シニ一ツ飛ビ



Fig. 7. 生煉瓦ノ塋ト大官第〇夫人及ビ其ノ小孩(子供)
(著者撮影)

出シテ見ヨウ。人間トイフ奴ハ梅雨時デナクトモ時々コンナ氣持ニ驅ラレルモノデアル。ソナナ時ニハ飛行機ニ乗ルニ限ル。颯ト朔北ノ砂塵ヲ蹴立テ、飛ビ立ツタ荒鷺。想像スルダケデモ氣ガセイセイトスル。實際愈々コレカラ墜落シマスカラ、落下傘ノ用意ヲシテ下サイトデモ言ハレナイ限り、墜チル等トノ心配ハ露程ニモシテ居ラレナイ。コレハ強チ筆者ノ樂天的性質ノミニ依ルモノデモアルマイ。世ニ病氣ヲスル人ハ數知レズアルガ、飯ヲ食ヒ乍ラコレヲ食ツタラ死ヌ、アレヲ飲ンダラ命ハナイ等ト箸ノ上ゲ下シニ氣ヲ病ム手合ハ常人ニハ餘リアルマイ。理窟ハコノ位デ花紙ト一緒ニ窓カラ飛バシテ、後ハ熱河ノ野トナレ山トナレ。一ツ景色デモ眺メヨウ、否調査ニデモ取りカ、ラウ。トイフ譯デ熱河省ヲ大處高處カラ見下ス事ニスル。先ヅ熱河省全域ノ地勢ニ就イテ一言スルナラバ、但シコ、ニ熱河省ト書

イタノハ筆者ガ旅行シ
タ當時ノ熱河省ノコト
デ今春省境、改廢創設
ニヨリ全滿ガ15省ニ細
分サレコレニ伴ツテ、
現在デハ當時熱河省域
ハ北部ヲ興安西省ニ、
東部ヲ錦州省ニ讓ツタ
タメ、ヨリ小サクナツ
テキルコトヲ附言シテ
置カネバナラナイ。偕
テ當時ノ熱河省ハ其ノ



Fig. 8. 飛行前ノ記念撮影 (著者自前撮影)

地域、北緯 40 度 19 分ヨリ、43 度 30 分ニ東經 12 度 1 分 50 秒ヨリ、西經 116 度 54 分ニ
跨リ、緯度ノ點カラ見レバ我が青森縣乃至北海道中部ニ相當シ、面積ハ約 14 萬平方杼、即
チ朝鮮ノ約 2 分ノ 1、北海道ノ 2 倍大ニ及ンデキル。而シテソノ地形ハ西北ヨリ東北ニ稍々
長ク、地勢ハ南西部ニ山嶽重疊シ、北スルニ從ツテ、ソノ高度ヲ減ジ、東北部ハ純然タル准平
原ヲナシテ、丘陵性ノ高地以外ニハ山ヲシイ山ハ殆ンドナク。滿目曠漠タル荒原狀ヲ呈シテ
キル。即チ山系ニハ遠ク陰山山脈ノ流ヲ掬ム燕山、七老圖ノ二山脈西南部ニ蟠居シテ概シテ
高峻ナル山谷ヲ呈シ、コノ山脈走向ト略直角ニ東南境ヲ松嶺山脈ガ北上シ、山勢北スルニ從ツ
テ衰ヘ遼河々畔ニ到ツテ極マツテキル。而シテコノ間ヲ流レル水系ニハ北部ニ遼河ノ支流

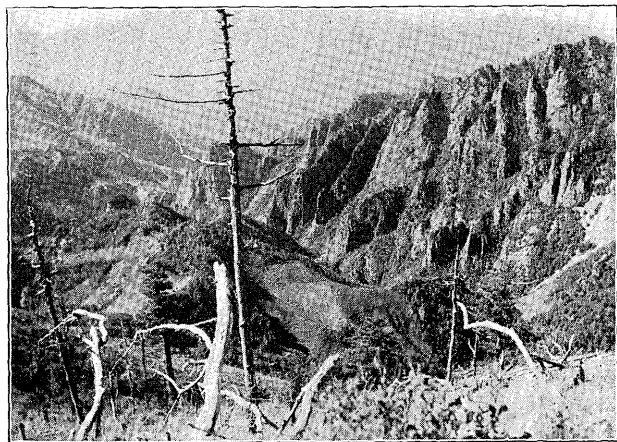


Fig. 9. 南部地方ノ典型的地勢—霧靈山 (著者撮影)

タル西喇木倫、老哈、
叫來ノ 3 川アツテ何レ
モ内蒙古ノ曠野ヲ貫流
シ、中部ニハ大凌河ノ
流アツテ松嶺山脈ニ沿
ヒ、南部ニハ灤河ノ本
支流アツテ山間ヲ縫行
シ、滿蒙ニハ稀ラシイ
溪谷美ヲ誇ツテキル。

一方其ノ氣候ヲ通覽
スルナラバ、南東部ニ
ハ近ク渤海灣ヲ控ヘル
トハイヘ、前述ノ如キ
地勢上ノ南高北平性ニ

禍ヒサレテ、海洋ノ影響ハ極ク南部ニノミ局限サレテ北部ハ純然タル大陸性氣候ヲナシ、晝
夜夏冬ノ氣溫差著シク、著者自身ノ旅行中ノ觀測、承德○師團司令部、赤峯領事館等ノ觀測

ニ賴レバ、年平均氣溫ハ攝氏 4-10 度デ 10 月カラ翌年 4 月迄ノ 7 ヶ月ハ 10 度以下ヲ保チ、最低零下 30 度ニモ及ビ、全ク氷神ノ下ニ左祖セネバナラズ、5 月及ビ 9 月ノ 2 ヶ月ガ 10 度乃至 20 度デ僅ニ春ヲ思ヒ秋ヲ僞バセルニ過ギナイ。而シテ殘餘ノ 6, 7, 8 ノ 3 ヶ月ハ 20 度以上 40 度ニ達シ、火車ノ改メ道具ニ掛ケラレルノデアル。但シ其ノ暑氣モ晝間ダケノコトデ、日没ト共ニ急ニ氣溫ガ低下スルノガ常石トナツテキル。而シテ晝夜ノ氣溫ノ差 20 度以上ニ及ブコトハ決シテ珍ラシクモナイ。又同地ノ降霜ハ南部デハ 10 月上旬ニ始リ、北部デハ 9 月下旬ガ普通デ、最終霜ハ南部デハ 4 月中旬、北部デハ 5 月上旬乃至中旬デアル故、コノ間ノ無霜日數ハ僅カ 140—180 ニ過ギナイ。從ツテコノ短期間ノ内ニ作物モ一般野外、一年生植物モ成長、開花、結實ヲ完了セネバナラナイノデアル。併シコノ短イ無霜期間中、比較的高溫ノ日ガ打チ續クコトハコノ植物ニ取ツテ非常ニ好都合ト見ラレテ居ル。又降水量ハ日本内地ニ比シ南部デスラ、漸ク 2 分ノ 1 程度デ、北スルニ從ツテ急激ニ減少シ、北部デハ僅々 10 分ノ 1 程度ニ過ギナイ。然モ是等ノ降水量ハ 6 月中旬ヨリ 9 月中旬迄ノ 3 ヶ月間ニ殆ド集中シ年總降水量ノ 4 分ノ 3 ニ當リ、殘ル 4 分ノ 1 ガ他ノ時期ニ降ルノデアル。ソコデ今降水ト植生トノ關係ニ就イテノ極メテ一般の通則ヲ御紹介スルコトニスル。

ツマリ降水ノ量、其ノ連續時間及ビ四季ニ於ケル其ノ分配狀態ハ植物群落ヲ様々ニ變化スルモノデアル。即チ冬期雨多ク、夏期雨少ケレバ一般ニ常綠灌木狀森林ガ優占のトナリ、之ニ反シテ冬期雨多ケレバ、草木類ノ群落ガ

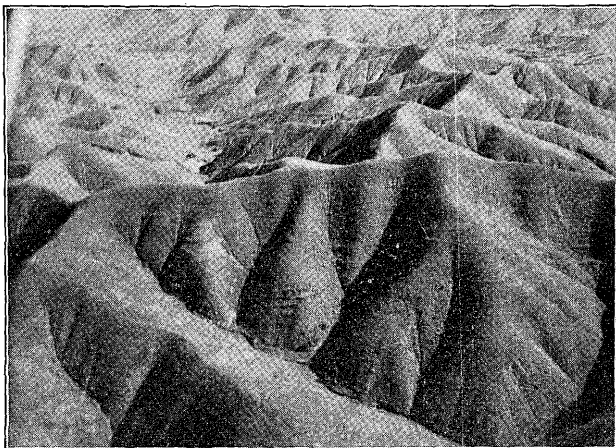


Fig. 10. 中部地方ノ典型的地勢 (著者機上撮影)

優占のトナル。又夏冬共ニ雨少ケレバ沙漠狀ヲ呈スル。夏冬共ニ相當ノ降水ガアレバ、普通吾人ノ目撃スルガ如キ森林ヲ見ル様ニナル。コノニ於テ熱河省ノ植生狀態ヲコノ通則ニ照シ合セテ見ルナラバ、上述第 2 及ビ第 3 ノ場合ニ該當スルコトガ判ルノデアル。勿論一地方ノ植生狀態ハ單ニ降水量ダケデハ決定サレルノデハナイガ、熱河省ノ如キ比較の乾燥地デハ降水量ハ植生狀態ト一番關係ガ深イト見テ良イノデアル。兎ニ角コノ種ノ植生狀態ノ大觀の調査ニハ飛行機ヲ利用スルコトガ是非必要デ、筆者ハ熱河省全域ヲ飛行シタ譯デハナイガ、僅カナ飛行時間デモコノ意味カラシテ極メテ有意義ナモノデアツタ。今後トモ滿洲地方ノ生態學の調査ニハ是非トモ飛行機ガ利用サレネバナラヌト痛感シタコトヲ特筆大書シテ置ク。(續ク)

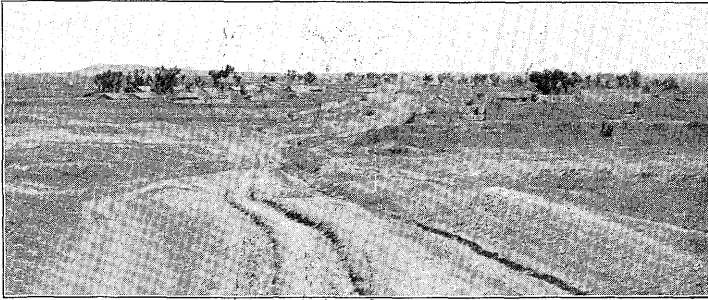
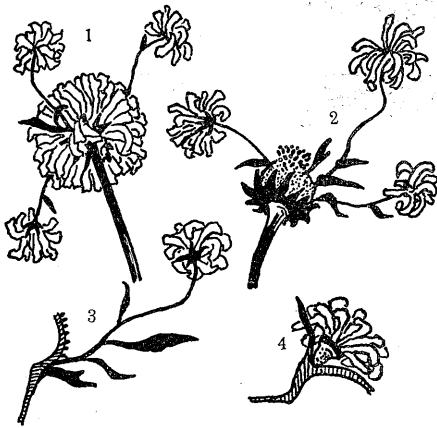


Fig. 11. 北部地方ノ典型的地勢 (著者撮影)

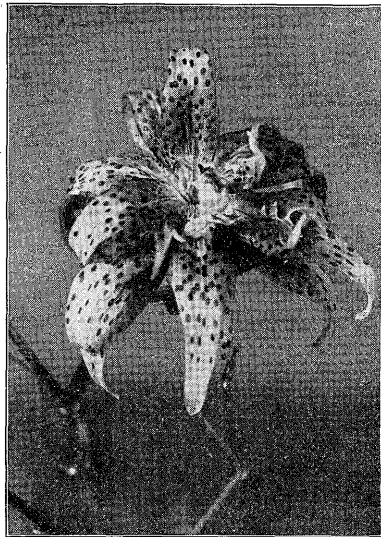
○ひなぎくノ複花トおにゆりノ狂咲

ひなぎく (*Belis perensis*) ノ複花ニ就テハ既ニ三好博士ガ最新植物學中卷第四章植物ノ畸態ノ所デ「菊科植物ノ頭狀花ノ花托ガ圓錐形トナリ數個ノ有柄頭狀花ヲ着ク」ト述ベラレ「西村眞夫氏寄贈ノ標本ニ依ル」ト寫圖ガ出テキルガ小生ノ見タモノハ次ノ圖ノ如クヤ、其



ひなぎく (*Belis perensis*) ノ複花

1. 該花ヲ裏面ヨリ見タモノ 2. 子頭狀花ノ着生ノ様子
3. 2ニ同ジ、4. 無柄ノ子頭狀花



おにゆりノ狂咲

ノ趣ヲ異ニシテ母頭狀花ヨリ生ズル子頭狀花ハ長柄或ヒハ無柄ノ狂咲狀ノモノデ中心部ニ筒狀花ナク有柄ノモノハ 1—3 枚位ノ小葉ヲ着ケテキル、子頭狀花ハ母花ノ花托或ヒハ總苞間ヨリ生ジ其ノ遺傳性ニ就テハ目下調査中デアルガ多數ノ該花株ヲ見タルコトヨリ恐ラク遺傳性ヲ有スルモノト思ハレル斯ル象現ハ花ノ由來ヲ物語ルモノ、ヤウニ考ヘラレル。

おにゆり (*Lilium tigrinum*) ハ觀賞用食用トシテ可成リ廣ク栽培サレテキルガ他ノ觀賞用植物ニ比較スルト殆ド人ノ手が加ヘラレナイデ野生ノマ、ノ感ジヲ與ヘテキル。茲ニ